

令和6年度 館林市立第二小学校 学校経営について

1【学校教育目標】

かしこく（知育） たくましく（体育） 心ゆたかな子（徳育）

(1) 目指す学校像 ～生きる力を育み、未来につながる体験と感動のある学校～

○学校教育目標の実現を目指し、全教職員が教育活動に創意と情熱を傾け、生きる力の基礎を身に付けさせる活力のある学校を目指します。

○地域とともにある学校として、学校・家庭・地域の力で課題に取り組み、将来につながる豊かな体験を取り入れた教育活動を行う学校を目指します。

(2) 目指す児童像

かしこい子（知育）

基礎基本を身に付け、考え表現する子

- ① 自分で考え追究する子
- ② 考えや思いを表現できる子（★）

たくましい子（体育）

自分で考え、粘り強く努力する子

- ③目標を持って粘り強く努力する子
- ④自分で考えて行動する子

「チャレンジし、自信を持って個性を輝かせる子」

心ゆたかな子（徳育）

自他を大切にし、自分のよさを伸ばせる子

- ⑤思いやりの心をもち自他を大切にする子（☆）
- ⑥笑顔で誰とでもあいさつする子（☆）
- ⑦自分の特徴を知り、長所を伸ばせる子（☆）

☆は道徳教育重点内容項目に関連

★は校内研修に関連

(3) 目指す職員像・教師像

職員像：問題・課題・相手意識をもち、組織的に働く職員

教師像：子どもの成長のために創意と情熱を傾けて指導し、協働的に働く教師

2【学校経営方針】

- 1 魅力ある学校づくりの推進
- 2 豊かな心を育む指導の推進と温かい人間関係づくり
- 3 確かな学力を育む教育の推進
- 4 個性を伸ばす教育の充実
- 5 体力・運動能力の向上及び学校健康・安全の充実
- 6 信頼に応える職員と働きがいのある職場づくり

1 魅力ある学校づくりの推進

○問題意識をもち、PDCA サイクルを意識し改善に向け、見通しを持って取り組む。

○本質は何か、目的は何かを考え、変化を恐れず、よりよい教育活動は何かを考え実践する。

○学校と地域が目標や課題を共有し、地域とつながり、取り組みが持続可能なものに。

・教育課程の工夫～里沼学習、防災学習など、地域とともにある教育活動を行い、郷土愛や愛校心を育む。

・子どもたちのよりよい成長のために、「南光ネットワーク（地域学校協働本部）」とつながり地域資源や人材活用、連携の方法を探る。

☆重点「里沼学習（総合学習）」「防災教育」「ICTの有効活用」

→ICTを使う場面や目的を明確にし、職員同士で活動内容を精選する

2 豊かな心を育む教育の推進と温かい人間関係づくり（人とのつながり）

○道徳教育の重点：「個性の伸長」「礼儀」「相互理解、寛容」

○キャリア教育の充実（自己有用感・自己肯定感を持たせる取り組みを）

・「目標を持って、粘り強く努力する子」「自分の特徴を知り、長所を伸ばせる子」の育成

・特別活動の充実（学級活動、委員会活動、縦割り活動）

児童が工夫し実践する場、褒め合い認め合える場を設定

→ 高学年をリーダーとした異年齢活動の工夫や学習活動を通して、人とのつながりを大切にし、主体性や非認知能力を高める、伸ばす

○心の教育

・思いやりの心をもって、自分も他者も大切にする。→受け止め、認め合い、支え合う

・命を守る教育を行う。→不安感の解消

・笑顔で誰とでもあいさつできる、また直接話す→関わり合うことでいじめ防止につなげる

○児童支援会議の充実

・生徒指導、教育相談、特別支援（教育支援）等、児童をめぐる諸課題の未然防止、早期発見、早期解決を図る。

3 確かな学力を育む指導の推進

○伝える力の向上（校内研修）

・よりよい考えや思いを表現できる児童の育成～互いに伝え合い、認め合うことを通して～

① 相手・目的意識を明確にして、自分の考えや思いを伝える場面設定の工夫

② 人の考えや思いのよさを取り入れる場の設定の工夫

・授業力の向上（模擬授業、一人一授業）

授業の質を高め、何ができていて何ができていないか把握しながら授業を行う。

その後の評価でできない部分を把握したら補充指導で定着を図る。

○個別最適な学びにつなげる工夫を行う。

・ICTリテラシーの向上、一人一人に寄り添う支援としてのICTの有効活用

→ ICTを使う場面や目的を明確にし、職員同士で活動内容を精選する

○主体性を育む取り組みと学力の定着（学力向上）

・朝学習、補充の時間による学力の定着の工夫

・効果的な宿題の出し方と自主学習の工夫～家庭学習の手引きの改訂～

→ 学習の見通し、めあてと振り返りの徹底、何が分かって学習したことが次のどんなことに生かせそうか？

4 個性を伸ばす教育の充実

○一人一人のよさ、がんばり（意欲や過程）を認め、可能性を伸ばす指導を行う。

○個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成

- ・困難を抱える児童をしっかり把握し、合理的配慮を行う。

○ユニバーサルデザインを意識した授業

- ・誰にとっても便利な支援。居心地がよく自己有用感を得られる学級作り。
- ・誰にとっても分かりやすい授業。

○個別最適な学び

- ・個々の状況を把握し、ICTを活用するなどの工夫を行う。

5 体力・運動能力の向上及び学校健康・安全の充実

○自己目標に向かって取り組むことができる積極的な意欲付け（目的意識を高める）

→以前の自分の取組や記録、カード等から次の目標へステップアップするために

- ・「できるようになった」「楽しい」と実感できる授業の展開
- ・適切な準備運動、サーキットの設定

○計画的、継続的に運動できるようにし意欲・体力向上につなげる

- ・マラソンタイム、縄跳び大会など
- ・体力向上につなげる体力テストの実施と結果の活用

6 信頼に応える職員と働きがいのある職場づくり

○業務を見直し、効率的で、実りある仕事を行う。

○「規律確保行動計画」の取組に対して、全教職員で点検・評価し、課題を自分事化し具体的に話し合い、非違行為の根絶をはじめとする服務規律確保に向けての意識の高揚を図る。

○人には笑顔で接する

- ・保護者への丁寧な対応、来客者への迅速な対応、電話のマナー
- ・人権意識に心がけ、子ども達に丁寧な言葉がけ（さん付け）をする。

○整理整頓、清潔で心安らぐ環境の整備を充実させる。

- ・児童が帰った後の教室整備、掲示物の工夫、花を飾る心の余裕

○一人一人のよさや強みを生かし、力を発揮できる職場へ。

- ・自己理解、メタ認知。自分の強みを生かし、よさを伸ばす。弱さは人の手を借りることも惜しまず。「協働」「同僚性」